

月華

平成29年11月15日
京都市上京区寺町通清和院口上ル
二丁目北之辺町395 20
社会福祉法人 浄山会
TEL 075(223)1165
FAX 075(223)1166
URL <http://jozankai.jp/>
発行人 稲岡正純
編集人 広報委員会

第50号



月華祭

陶器市



清水焼の高級陶器を格安にて提供させていただきました。花瓶、煮物鉢、茶碗に湯飲みと、500品ほど陳列しましたので、見るだけでもお楽しみいただけたのではないのでしょうか。

バナナスムージー

事務職員が幾度と試食を重ね、間違いのない飲みやすさを追求しました。美味しいととても好評で、ジューサーミキサーはフル回転していました。



のど自慢大会



蝶ネクタイの職員による司会で会場は大盛り上がり。参加者は大きな声で懐かしい歌を大合唱しておられました。声を出し楽しく歌うと元気がでますね！

駄菓子コーナー

昔懐かしい駄菓子を魚釣りゲームでゲット！磁石で釣る魚はなかなか難しく四苦八苦でした。綿菓子やラムネ、黒糖棒・・・美味しいですね！



ハンドベル演奏



休憩時間や仕事後に猛練習。初めはどうなることが不安でしたが、無事に演奏を終え「良かったよ！」の賛辞に達成感を得て、職員の絆もより深まりました。

世界に一つだけの陶器づくり

絵付け専用のマーカーペンで陶器に絵を描き、オーブンレンジで焼き付けました。写真はご家族さまの力作です。とても素敵な陶器が完成しました。



吉田今宮太鼓



京都の吉田地域で活動されている和太鼓集団、吉田今宮太鼓さんに演奏していただきました。大太鼓の鳴り響く音は迫力満点で、皆さんも興奮して聞き入っておられました。

敬老のお祝い

敬老会では、米寿三名、百寿二名、皇寿一名の合計六名の方々の表彰を行いました。たくさんのご入居者やご家族、職員がお祝いするなか、稲岡施設長より表彰状と記念品や似顔絵の贈呈をしました。米寿を迎えられた大崎重子さんは「こんなに大勢の人の中でお祝いをしてもらえて感無量です。もっと綺麗な服装を着てきたら良かったわ」と、お話しくださいました。

今年、百十一歳の皇寿を迎えられた岩崎ゆきさんは一階うめユニットで過ごされています。つきかげ苑での普段の様子や生い立ちをご紹介します。

岩崎 ゆきさん

舞妓さんと(3年前)



岩崎ゆきさんは、明治三十九年二月七日にお生まれになり、御年百十一歳、京都府下で二番目のご長寿とされます。

九十三歳まで、ご自宅で三味線のお師匠さんをされていました。毎日ご自分で髪を結われ、着物をお召しになりお稽古をつけておられたそうです。また、百二歳までは一人暮らし同然にご自身のことは何でも自分でされていたそうです。

岩崎さんの日常は、朝食前にユニットのホワイトボードに日付けを書いていただくのが日課となっています。お食事は、ゆっくりではありませんがお粥や食べやすく調理したおかず、またお好きなスープやぜんざいなどを召し上がっておられます。普段は居室で過ごされることが多いのですが、その時は三味線の音楽や長唄を流しゆったりと過ごしていただいています。

日本における現在の最高齢は百十六歳の女性だそうです。いつまでもお元気で私たちの傍で穏やかに過ごしていただきたいです。職員一同心よりお祝い申し上げます。



永年表彰

つきかげ苑に入社し十年を迎えた職員三名の、永年勤続表彰式を行いました。その職員のコメントをご紹介します。

「この度は、私たちの永年表彰に多くのご入居者様、ご家族様も参加して下さり誠にありがとうございます。温かい拍手や、ありがたいお言葉をたくさん頂戴し、胸が熱くなりました。

今までご迷惑をおかけしたことも多々あったと思いますが、ご入居者と一日一日を一緒に過ごし、十年という時間をつきかげ苑で過ごせた事を嬉しく思います。皆さまに支えられてここまでこれたという事を忘れずに、今後も気を引き締めて仕事に取り組んで参りたいと思います。」



右： 濱 幸恵看護師
中央：藤 まゆみ介護士
左： 清水 優子
ユニットリーダー

月華発刊五十号によせて



入居者さんに書いていただきました



恒例行事も回を重ねてまいりました



満足度調査も行っております



創刊号です



つきかげ苑設立10周年記念号です



つきりん登場です

つきかげ苑広報紙「月華」は、施設開所より遅れること半年、平成十七年四月に創刊しました。創刊以来十二年、今号で五十号を迎えることができました。

「月華」は広報委員会にて企画立案、内容構成、デザイン、編集、校正、印刷と全ての工程を自分達で行っています。正直なところ、大変な作業ではありますが、手作りにて皆さまにお届けできることの意義をご理解いただくと自負しております。年四回の発行で、つきかげ苑での暮らしの全てを皆さまにお伝えするのは難しいことではありますが、「少しでも多くの内容を分かりやすくお伝えしたい」との思いはこの先も変わることはありません。

今回の発行にあたり過去の記事を見返したところ、自分でも忘れかけていた懐かしい出来事、今は亡きご利用者の笑顔などができました。今号はこれまで、そしてこれからの「月華」の在り方を考える良い機会となりました。さらなる内容の充実を目指して参りますのでご期待ください。また、沢山のご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

(広報委員長 奥田昌也)

孟蘭盆法要 ～ 関係物故者供養

八月二日、浄土宗大本

山清浄華院（真野龍海法
主台下）の後援を得て、

「孟蘭盆法要（うらぼん
ほうよう）」を行いました。



孟蘭盆は、ウラバンナの音写語で倒懸（とうけんく逆さ吊り）という意味です。祖霊を供養し倒懸の苦から救う仏教の慰霊行事で、一般には「お盆」の呼び名で馴染みが深いかと思えます。つきかげ苑では、亡くなられたご入居者や当苑と所縁のあった方々の供養法要として毎年行っております。

今年も多くのご遺族をはじめ、ご入居者と職員が参列いたしました。ご遺族から「この孟蘭盆法要はとても良い機会です、つきかげ苑に向かう道中から、母が過ぎていた頃の記憶が呼び戻され、母との繋がりを感じ何とも言えぬ懐かしい気持ちになりました」と感謝のご意見を頂きました。参列された皆さまは、大切な故人との思い出を心静かに偲ばれていたのではないのでしょうか。我々職員も故人から、多くの思い出と学びを頂いております。皆さまのご冥福をお祈りし、そ



の方々とのお繋がりを大切にしていきたいと思えます。

阿闍梨さん来苑!



六月三十日、千日回峰行に挑まれている阿闍梨さんに立ち寄っていただき、「お加持」を受けました。

千日回峰行は、天台宗の回峰行の一つで、厳し

いと言われる延暦寺の修業の中でも特に厳しいとされています。未開の蓮華を象った桧笠を被り、白装束、草鞋履きで行われます。京都名産の菓子「阿闍梨餅」はこの笠を象ったものです。千日で歩く距離は、地球一周分の四万キロに及びます。台風が来ようが、体調が悪かろうが休むことはできず、途中で行を続けられなくなったときは、自害するとの決意で「死出紐」と「短剣」を常時携帯されています。途中、足かけ九日間の「断食・断水・断眠・断臥」の行があります。通常、人が断食、断水状態で生きられる生理的限界は三日間とされているので、かなりの苦行と言えるでしょう。行の後半に清浄華院を寢床にされる時期があり、その際に立ち寄っていただきました。

九月十八日、無事に千日目を迎えられ「大行満大阿闍梨」となられました。長い歴史を誇る延暦寺ですが、記録が残る安土・桃山時代から満行者は僅か五十人だそうです。このご縁を大切に、私たちも徳を積み重ねていきたいものです。

つきりん解体新書

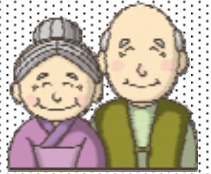
つきかげ苑十周年から突如現れた「つきりん」ですが、この度、詳細が判明しましたのでお知らせいたします。

- Q、
- 性別は？
 - 年齢は？
 - 出身はどこ？
 - どんな性格？
 - 好きな食べ物は何？
 - 嫌いな食べ物は何？
 - 身長は何センチ？
 - 体重は何キロ？
 - 趣味は？
- A、
- メスだにゃ
 - 秘密だにゃ
 - つきかげ苑
 - 穏やかで優しい
 - 「ふぐ」だにゃ
 - 「なすび」だにゃ
 - 百センチ
 - 秘密だにゃ
 - みんなと遊ぶにゃ



「つきりん」を通して、職員の団結・ご利用者やご家族の方々とコミュニケーションの向上などに繋がっていききたいと思います。

新入居者のご紹介



安澤 ヨネさん

手先が器用な安澤さん。洋裁の仕事をしながら家庭を支えてこられました。早くも当苑の生活に馴染まれています。

大塩 和子さん

笑顔が素敵な大塩さんです。書道の行事では、迷いなく筆を運ばれます。穏やかな生活を送られています。

加舎 民江さん

百歳でご入居された加舎さん。周りの方々に心配りをされるとても礼儀正しい方です。

中西 幸子さん

家業の友禅糊粉商の手伝いをしながら家庭を支えてこられた中西さん。楽しい会話で場を和ませてくださいます。

山内 よしえさん

専業主婦として家庭を支えてこられた山内さん。気さくな方で冗談も交えながら楽しくお話しされます。

要望受付

平成二十九年七月から九月に、ご入居者及びご家族から頂きました、ご要望は八件になります。

ご要望の内訳は「怪我のないよう介護をしてほしい」「無理な歩行介助は避けてほしい」「更衣時に身だしなみを整えてほしい」「本人の好きな景色を見させてほしい」「食事の形態を変更してほしい」「夜間にもお茶を提供してほしい」「居室の掃除をこまめにしてほしい」等、安全面、食事、整容、嗜好、環境整備とケア全般にわたる内容でした。

頂戴しましたご要望は、ケアプランの立案や各種委員会、フロアミーティング等で検討を行い、ご入居者の生活がより豊かになるよう迅速な対応に努めてまいります。

また、一階事務所横の掲示板の下に設置しておりますご意見箱や、各行政機関の要望受付窓口（市、区、国保連合会）及び第三者委員へのご相談もご利用下さい。

苦情要望内訳 <7月~9月>

安全面に関する事	三件
環境整備に関する事	二件
食事に関する事	一件
その他	二件
合計	八件

つきかけ苑理念

私たちは、自立支援・自己決定・生活の継続性・個別性を大切にします。

「共生(ともいき)」思想に基づく、利用者本位の明るく、楽しく、やすらぎのある施設づくりに努めます。

編集後記

当苑の広報誌「月華」は今回で五十号の節目を迎えました。これまでにご入居者の生活風景や、レクリエーション行事の様子などを掲載してまいりました。広報誌は、ご入居者の生活や、職員の想いを伝え、皆さまにつきかけ苑をより良く理解していただくための一つのツールとしての役割を果たしていると考えます。

皆さまにとって、当苑での出来事が忘れられない一つの思い出となることを願っております。これからも広報誌にて、ご入居者やご家族にとっての思い出となるような誌面の充実を目指し発信させていただきます。